

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
ア 収容定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	2
ウ 収容定員を変更する学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	3
1 収容定員を変更する学科等の趣旨目的、教育内容	3
2 アとイで分析した課題に対して収容定員を変更する学科がどのように貢献できるのか	3
3 収容定員設定の理由	4
4 今、収容定員変更をしなければならない理由.....	4
5 文学部人文学科の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠	4
エ 学生確保の見通し	4
A . 学生確保の見通しの調査結果	4
B . 収容定員を変更する学部の分野の動向.....	5
C . 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	6
D . 競合校の状況	8
E . 既設学部等の学生確保の状況.....	9
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	9
(2) 人材需要の動向等社会の要請	11
人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	11
上記 が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	12

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 収容定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

追手門学院大学は、「独立自強・社会有為」という学園の教育理念のもと、昭和41年4月に経済学部と文学部の2学部をもって開学し、その後、経営学部、心理学部、社会学部、国際教養学部、地域創造学部を開設し、令和4年4月からは、国際教養学部を発展的に改組し、文学部と国際学部の2学部を設置し、さらに令和5年4月から法学部を加えた8学部を擁する人文社会科学系大学へと成長を遂げている。

追手門学院大学は、開学以来、地域社会における人文社会科学分野に関する高等教育の場として、大きな役割を果たしているとともに、常に教育研究環境の整備と充実に努めてきたことから、地域社会における高等教育機関としての存在感とその重要性を高め、これまで有為な人材を数多く輩出している。

昨今、少子化による進学人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、進学希望者の進学意向や地域社会の人材需要を十分に見極めつつ、高等教育機関としての個性や特色の明確化に一層努めるとともに、中枢中核都市における高等教育機関としてのさらなる役割を果たす必要性が生じてきている。

今後、本学が地域社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、進学希望者のニーズや地域社会からの要請に対応した教育組織の充実や教育内容及び教育方法の改善など、高等教育機関としての新たな取組みに格段の努力を注ぐことが重要であると考えている。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や最近の進学希望者の動向などを踏まえるとともに、特に、昨今の社会情勢を見据えたうえで、地域に根ざした人文社会科学系大学としての役割と責任を果たすとともに、地域社会に対するより一層の貢献にむけて、令和6年4月より文学部人文学科の収容定員変更を行うこととした。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

文学部人文学科は、昨今の進学需要や人材需要の動向を踏まえたうえで、特に進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えつつ、学部教育における学生の選択の幅や流動性を高めるとともに、中枢中核都市における高等教育機関としての多様な発展に向けた教育研究に取り組むことを目的として、令和4年4月に開設した。

文学部人文学科では、開設後、設置の趣旨や目的等が活かされるよう、設置計画に基

づく教育研究の適切な履行に努めていることから、開設初年度及び2年目とも数多くの志願者数と入学者数を確保しており、近年の18歳人口の減少期においても、入学者選抜の機能を十分に果たすことができるだけの状況を確保している。

今後、本学が地域社会に対して高等教育機関としての使命と役割を一層果たしていくためには、文学部人文学科への進学希望者に対して、より広く教育を受ける機会を提供することで、高い進学需要に積極的に応えとともに、多くの有為な人材を輩出することで、地域社会への人的貢献を果たす必要があると考えている。

このことから、文学部人文学科における開設以降2年間の志願者数の状況を踏まえたうえで、受験生からの進学需要の高い学部教育における養成規模の拡充を図ることによる地域社会へのさらなる貢献を目指すこととし、入学者選抜の機能が低下しない範囲内で、文学部人文学科の収容定員変更を行うこととした。

ウ 収容定員を変更する学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1 収容定員を変更する学科等の趣旨目的、教育内容

文学部人文学科は、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」として、文学分野に関する教育研究を通して、「日本の歴史や文化及び日本語に対する広く深い知識や理解と見識に基づく豊かな表現力を習得する。また、文学作品や文献をもとに事実を科学的に考察するための技術を身に付け、物事を深く見通し、本質をとらえる能力を習得する」ことを教育研究上の目的としている。

また、文学部人文学科では、「日本文学・日本語・日本史・日本文化に関する学びを通して、高い理解力と思考力を身に付け、専門的知識を活用して思考・行動ができるとともに、創造的に問題解決を図り、新しい文化や時代を創出することができる人材を養成する」こととしている。

文学部人文学科では、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修のもとに、円滑な単位の取得が可能となるよう、養成する具体的な人材像に対応した履修モデルとして「文学中心」、「歴史中心」、「文化中心」の3つのモデルを設定しており、学生の興味と関心や卒業後の進路に応じた適切な授業科目の履修が可能となるよう配慮している。

2 アとイで分析した課題に対して収容定員を変更する学科がどのように貢献できるのか

文学部人文学科の収容定員変更は、アやイに掲げている「地域に根ざした人文社会科学系大学としての役割と責任を果たす」こと及び「地域社会に対して高等教育機関としての使命と役割を果たす」ものであり、収容定員を変更することで「高い進学需要に積極的に応える」ことは、学生受入れの面から地域社会に貢献できるものであり、「より多くの有為な人材を輩出する」ことは、人材養成の面から地域経済の発展に貢献できるも

のである。

3 収容定員設定の理由

定員設定の理由は、文学部人文学科における開設初年度及び2年目の志願者動向を踏まえたうえで、学生確保の見通しの調査結果、収容定員を変更する分野の動向、中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等、競合校の状況、既設学部の学生確保の状況などを総合的に勘案するとともに、文学部人文学科における教員組織、教育課程、施設設備及び学部運営に係る財務的な視点等を勘案しつつ、教育の質の保証の観点から、充実した教育研究体制の確保が可能となるよう配慮し、入学定員を現行の180人から220人に変更することとした。

4 今、収容定員変更をしなければならない理由

今般、収容定員変更を計画している文学部人文学科は、昨今の進学需要や人材需要の動向を踏まえたうえで、特に進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えつつ、学部教育における学生の選択の幅や流動性を高めることを目的として設置したところであるが、開設初年度及び2年目における志願者動向から、進学需要の高い専門分野における受入れ規模の充実を図ることにより、進学希望者に対してより広く教育を受ける機会を提供する必要があると判断したものである。

5 文学部人文学科の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学生納付金の設定根拠については、大学及び学部運営に係る財務的視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、設置圏域における類似の学部・学科を設置している私立大学（立命館大学、龍谷大学、関西大学、近畿大学、関西学院大学、甲南大学、神戸学院大学）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や教育活動支出依存率を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予想による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。（資料1：設置圏域における類似学部を設置している私立大学の学生納付金）

エ 学生確保の見通し

A 学生確保の見通しの調査結果

1) 設置圏域を中心に所在する高等学校の2年生に対する進学需要調査結果

文学部人文学科の収容定員変更は、開設初年度及び2年目の志願者動向を踏まえたうえで、学生確保の見通しの調査結果、収容定員を変更する分野の動向、中長期的な

18歳人口の全国的、地域的動向等、競合校の状況、既設学部の学生確保の状況などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、収容定員変更の計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、設置圏域を中心に所在する高等学校の2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、高等学校卒業後の進路について「大学進学(4年制・6年制)」と回答し、進学を希望するする分野について「文学・史学・哲学関係」と回答した者で、追手門学院大学の文学部人文学科を「受験を希望する」と回答した者のうち、文学部人文学科に合格した場合「入学を希望する」と回答した者は296人、「併願大学の結果によって入学する」と回答した者は73人となっている。(資料2：追手門学院大学文学部 進学需要・人材需要に関するアンケート調査結果報告書(進学需要調査部分抜粋))

このように、設置圏域を中心に所在する一部の高等学校の2年生の調査結果においても、追手門学院大学の文学部人文学科への高い受験意向と入学意向が示されていることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

2) 進学需要調査結果等に基づく進学需要推計 - 中長期的な学生確保の見通し -

文学部人文学科の収容定員変更後における中長期的な学生確保の見通しについて、設置圏域を中心に学校基本調査報告及び進学需要調査結果から推計を行った。

その結果、文学部人文学科への入学希望者については、収容定員変更後の入学定員220人に対して、収容定員変更後2年目は257人、3年目は276人、4年目は274人、5年目は268人と推計することができ、収容定員変更をした場合の中長期的な学生確保についても十分に見込むことができる推計結果となっている。(資料3：大阪府及び隣接府県の高等学校及び中学校の在籍者数及び高校進学率)(資料4：大阪府及び隣接府県における学校基本調査報告及び進学需要調査結果に基づく進学需要推計)

B. 収容定員を変更する学部の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団による各年度における「私立大学・短期大学等入学志願動向」による「主な学部別の志願者数・入学者動向(大学)」における「文学」の全国的な動向をみると、平成30年度から令和4年度までの5年間の入学定員に対する志願者数と志願倍率の平均は、入学定員33,080人に対して志願者数307,672人、志願倍率9.3倍と安定した志願者数と志願倍率で推移しており、入学定員充足率においても5年間の平均は101.9%となっている。(資料5：全国私立大学学部系統別の入学志願動向(平成30年度～令和4年度))

このように、今般、収容定員変更を計画している文学部人文学科と同分野の文学部

における最近の全国的な志願者・入学者動向から、当該分野における安定的な志願者数と入学者数の状況で推移していることから、収容定員を変更した場合でも十分な学生確保を見込むことができると考えられる。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

1) 大阪府及び隣接府県の高等学校及び中学校の在籍数

令和4年度の本学への通学可能圏域である大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の学校基本調査によると、文学部人文学科の収容定員変更後の初年度に受験対象者となる大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の高専に在籍している2年生の生徒数は138,251人、収容定員変更後2年目に受験対象者となる大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の高専に在籍している1年生の生徒数は144,857人となっている。

また、収容定員変更後3年目に受験対象者となる大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の中学校に在籍している3年生の生徒数は157,208人、収容定員変更後4年目に受験対象者となる大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の中学校に在籍している2年生の生徒数は155,916人となっている。

なお、令和4年3月の大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の中学校を卒業した者の高等学校等への進学率の平均は98.9%となっており、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の中学校を卒業した者の高等学校等への進学率を見ても、今後、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の大学受験対象者が大きく減少することはないと見込まれる。(資料3：大阪府及び隣接府県の高等学校及び中学校の在籍者数及び高校進学率)

2) 大阪府及び隣接府県の人口動向等 - 年齢別人口における中長期的な見通し -

全国的に18歳人口の減少が予想されている中で、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県における学齢人口は比較的緩やかな傾向が示されており、総務省統計局が公表している最新の大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の最新の年齢(5歳階級)別推計人口を見ると、10歳~14歳の人口は773,000人、5歳~9歳の人口は715,000人となっており、今後の大学受験対象者となる5歳~14歳の年齢別人口は、微増減を繰り返しながら穏やかに推移していくことから、中長期的にみても大学受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。(資料6：大阪府及び隣接府県における人口統計の抜粋)

3) 大阪府及び隣接府県の高等学校を卒業した者の大学進学状況

1) 大阪府の高等学校を卒業した者の大学進学状況

大阪府の学校基本調査によると、大阪府内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和2年3月は卒業生数72,555人のうち大学等進学者は4

4,873人で大学等進学率は61.8%、令和3年3月は卒業生数70,339人のうち大学等進学者は45,229人で大学等進学率は64.3%、令和4年3月は卒業生数68,065人のうち大学等進学者は45,305人で大学等進学率は66.6%となっており、大阪府内の高等学校を卒業した者の大学等進学率は、令和2年3月の61.8%から令和4年3月は66.6%と4.8ポイント上昇していることから、大阪府内の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

2 京都府の高等学校を卒業した者の大学進学状況

京都府の学校基本調査によると、京都府内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和2年3月は卒業生数22,541人のうち大学等進学者は15,283人で大学等進学率は67.8%、令和3年3月は卒業生数22,049人のうち大学等進学者は15,399人で大学等進学率は69.8%、令和4年3月は卒業生数21,821人のうち大学等進学者は15,568人で大学等進学率は71.3%となっており、京都府内の高等学校を卒業した者の大学等進学率は、令和2年3月の67.8%から令和4年3月は71.3%と3.5ポイント上昇していることから、京都府内の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

3 兵庫県の高等学校を卒業した者の大学進学状況

兵庫県の学校基本調査によると、兵庫県の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和2年3月は卒業生数44,846人のうち大学等進学者は28,046人で大学等進学率は62.5%、令和3年3月は卒業生数43,957人のうち大学等進学者は28,285人で大学等進学率は64.3%、令和4年3月は卒業生数42,454人のうち大学等進学者は28,004人で大学等進学率は66.0%となっており、兵庫県の高等学校を卒業した者の大学等進学率は、令和2年3月の62.5%から令和4年3月は66.0%と3.5ポイント上昇していることから、兵庫県の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

4 奈良県の高等学校を卒業した者の大学進学状況

奈良県の学校基本調査によると、奈良県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和2年3月は卒業生数11,661人のうち大学等進学者は6,982人で大学等進学率は59.9%、令和3年3月は卒業生数11,180人のうち大学等進学者は6,909人で大学等進学率は61.8%、令和4年3月は卒業生数10,939人のうち大学等進学者は6,935人で大学等進学率は63.4%となっており、奈良県内の高等学校を卒業した者の大学等進学率は、令和2年3月の5

9.9%から令和4年3月は63.4%と3.5ポイント上昇していることから、奈良県内の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはないと、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。(資料7:大阪府及び隣接府県の高等学校を卒業した者の大学進学状況)

5 大阪府及び隣接府県の高等学校を卒業した者の入学状況

文学部人文学科における開設以降2年間の都道府県別の入学状況をみると、大阪府内の高等学校を卒業した者の入学者数は、入学者総数394人の約71.6%にあたる282人、京都府内の高等学校を卒業した者の入学者数は、入学者総数394人の約2.8%にあたる11人となっている。

また、兵庫県内の高等学校を卒業した者の入学者数は、入学者総数394人の約14.7%にあたる58人、奈良県内の高等学校を卒業した者の入学者数は、入学者総数394人の約9.6%にあたる38人となっており、文学部人文学科における大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の高等学校を卒業した者は、入学者総数394人の約98.7%にあたる389人と高いものとなっている。

このように開設以降2年間における都道府県別の進学状況から、文学部人文学科への大阪府、京都府、兵庫県、奈良県内の高等学校を卒業した者の入学傾向は続くものと見込まれ、特に大阪府と兵庫県からの入学者は2年間の平均で86.3%を超える高い入学率であり、先に記した大阪府、京都府、兵庫県、奈良県内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況等と併せみても、中長期的に安定した志願者と入学者の確保を見込むことができると考えられる。(資料8:追手門学院大学文学部人文学科における大阪府及び隣接府県の高等学校を卒業した者の入学状況) 令和5年度においては3月13日時点の数値である。

D. 競合校の状況

文学部人文学科との競合が想定される私立大学は、立命館大学文学部人文学科(入学定員1,035人)、龍谷大学文学部日本語日本文学科(入学定員101人)、同文学部歴史学科(入学定員267人)、関西大学文学部総合人文学科(入学定員770人)、関西学院大学文学部文化歴史学科(入学定員275人)、同文学部言語学科(入学定員320人)で、各大学が公表している入試結果による最近3年間の平均志願者状況を見ると、6学科全体の入学定員2,768人に対して志願者数33,018人、定員充足率は1.03で、18歳人口の減少期においても安定した志願者数の確保と定員充足率を維持しており、このような競合大学の志願者動向等からも十分な定員充足が見込めると考えている。(資料9:想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況)

E. 既設学部等の学生確保の状況

1) 収容定員を変更する学部等の状況

今般、収容定員を変更する文学部人文学科の開設初年度と2年目の入学定員180人に対する志願者数の平均は786人、平均志願倍率は約4.37倍、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の平均実質志願倍率は約1.83倍、平均入学定員充足率は1.09となっており、18歳人口の減少期においても安定した学生確保の状況を維持している。

なお、開設初年度と2年目の平均志願者数から収容定員変更後の入学定員220人に対する志願倍率を算定すると平均志願倍率は3.57倍となり、前身である国際教養学部国際日本学科を含む最近4年間の最も少ない年度の志願者数で算定しても3.34倍の志願倍率が見込まれることから、収容定員を変更した場合でも、入学者選抜の機能が低下することのない志願倍率を維持することができると考えられる。(資料10: 追手門学院大学文学部人文学科及び国際教養学部国際日本学科の志願者数の状況と推定志願倍率) 令和5年度においては3月13日時点の数値である。

2) 既設学部等の学生確保の状況

今般、収容定員を変更する文学部人文学科も含めた既設学部等における最近5年間の入学定員に対する志願者数及び志願倍率、実質志願倍率、定員充足率等は、別添資料11の通りとなっており、18歳人口の減少期においても安定した学生確保の状況を維持している。(資料11: 既設学科等の定員充足状況) 令和5年度においては3月13日時点の数値である。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた具体的な取組状況としては、大学案内やリーフレット等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けのSNS等の電子媒体による情報の発信、新聞、雑誌、車内広告等の各種メディアを活用したPR活動を行うとともに、本学への資料等請求者に対するダイレクトメールによる各種情報の提供を行うこととしている。

また、高等学校訪問、塾・予備校訪問、オープンキャンパス、高校教員向け説明会、保護者向け説明会や併設高等学校向け説明会、大学見学会をはじめ各地域における進学相談会などの開催を通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針をはじめ、学生生活を通じた活動、取得可能な免許や資格、過去における就職実績など様々な教育情報について、設置圏域を中心とする高校生や保護者に対して広く周知を図ることとしている。

1 高等学校訪問

高等学校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略の強化を図ることとしており、具体的には、入試業務全般を所管し、募集広報に係る高等学校訪問を専門とする入試課の職員が中心となって、過去において入学者の受入れ実績のある高等学校を中心とした重点募集対象地域の選定から最重点訪問高等学校や重点訪問高等学校のセグメントによる高等学校訪問計画の策定と特別指定高等学校枠の設定により、大府内高等学校及び設置圏域の高等学校からの確実な入学者の確保を目指すこととしている。年間延べ1,000校を超える高等学校訪問のほか、延べ1,000校の塾・予備校訪問を実施している。

高等学校訪問は、募集対象者が多数在籍している高等学校の進路指導教員・学年担当教員に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで、高等学校の教員との信頼関係を築くことができるものであり、高等学校の教員との信頼関係が構築できた場合には、高等学校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介をしてもらえるなどの効果が期待される。(資料12:高等学校等の訪問の具体的計画)

2 オープンキャンパス

本学への入学を希望・検討している進学希望者やその保護者を対象として、大学施設を積極的に公開し、本学への関心を深めてもらうための入学促進イベントとして、オープンキャンパスを実施しており、学部長・専任教員による講演や模擬授業、在学生や教職員による施設見学会、大学で学べる学問内容、取得可能な免許や資格、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付けるなど、対面による丁寧な説明を行うこととしている。

また、昨今は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1日あたりの上限人数を2,220人に設定し、完全予約制で開催をしている。こうした対面での予約制のオープンキャンパスに加えて、WEBオープンキャンパスも開催しており、特設サイト上で模擬授業動画13本を含む動画コンテンツ29本以上を配信している。2022年度の対面のオープンキャンパスの参加者数は以下のとおりである。

	日程	開催形式	事前申込者数	参加者数
2022年度	7月23日	完全予約制	2,220名	1,940名
	7月24日	完全予約制	2,220名	1,964名
	8月28日	完全予約制	2,000名	1,483名

新型コロナウイルス感染症が感染症法に定める5類感染症に移行する方針を受け、2023度はオープンキャンパスを4回開催する予定であり、1日あたりの来場可能

人数も引き上げる予定である。また引き続き、WEBコンテンツも有効に活用することとし、本学へ入学を希望・考慮している高校生やその保護者に、文学部の特色、学びの環境を伝えていく予定である。

3 保護者向け説明会

オープンキャンパスと同時開催で、本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうために、本学への進学を希望している高校生の保護者を対象とする説明会を開催する予定としており、教育研究の実施体制、学生生活の支援体制、就職活動の指導体制、想定される卒業後の進路、学費や奨学金制度、大学や学部の施設情報など、保護者が求めている情報を中心に本学の教職員による丁寧な説明を行うこととする。

4 高校教員向け説明会

本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校教員の高校生への進路指導に役立ててもらうことを目的として、大阪府及び隣接府県に所在している高等学校の教員を対象とする説明会を開催することとしており、個別説明・相談、当該年度の入試概要、想定される卒業後の進路、大学施設の見学など、高等学校の教員と本学の教職員との対面による丁寧な説明を実施している。本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらうこと効果が期待される。具体的には、大阪南(天王寺)エリア1回、大阪北(茨木総持寺キャンパス)2回の計3回、高等学校教員向けの入試説明会を実施する予定であり、合わせて200名以上の高等学校教員、塾・予備校関係者の来場を見込んでいる。

5 進学相談会

民間企業が主催する進学相談会には、設置圏域を中心に20会場以上の参加を予定している。大学・学部資料の配付だけでなく、入学者受入れの方針、選抜方法の種類、試験科目、各入試の実施方法、授業科目、講義内容、取得可能な資格、想定される卒業後の進路、大学周辺の施設や環境などに関する情報を広く提供することにより、学生確保に努める予定である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

文学部人文学科では、日本文学・日本語・日本史・日本文化に関する学びを通し

て、高い理解力と思考力を身に付け、専門的知識を活用して思考・行動ができるとともに、創造的に問題解決を図り、新しい文化や時代を創出することができる人材を養成する。

また、文学部人文学科では、日本の歴史や文化及び日本語に対する広く深い知識や理解と見識に基づく豊かな表現力を習得するとともに、文学作品や文献をもとに事実を科学的に考察するための技能を身に付け、物事を深く見通し、本質をとらえる能力を習得する。

文学部人文学科の卒業後の進路としては、日本の文学・歴史・文化ならびに日本語に関する専門知識を身に付けて、出版関連産業、文化関連産業や教育関連産業をはじめとする幅広い分野で活躍することが期待されるとともに、文化活動を通じて文化事業や文化交流の振興や活性化に貢献することが期待される。

上記 が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 既設学部・学科の求人状況等

本学に対する最近4年間の求人件数の実績は、令和元年度は就職希望者1,207人に対して、求人件数19,400件で求人倍率は約16.07倍、令和2年度は就職希望者1,295人に対して、求人件数20,350件で求人倍率は約15.71倍、令和3年度は就職希望者1,315人に対して、求人件数17,230件で求人倍率は約13.10倍、令和4年度は就職希望者1,560人に対して、求人件数21,703件で求人倍率は約13.91倍となっており、昨今の就職難の状況下でも大きな影響を受けることなく、数多くの求人数を得ている。(資料13：既設学部・学科の求人状況等) 令和4年度においては3月13日時点の数値である。

このように、本学では昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、多数の求人数を得ているとともに、高い就職実績を有していることは、本学における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを示しているものであり、収容定員を変更した場合でも、就職先の確保については十分に見込めるものと考えられる。

イ 人材需要の根拠となる調査結果の概要

文学部人文学科の収容定員変更を計画するにあたり、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要等社会の要請を踏まえたものであることについて、客観的なデータから検証することを目的として、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業・団体等を中心として、本学の文学部人文学科の必要性や養成する人材、文学部人文学科を卒業した者への採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、文学部人文学科において養成する人材については、回答件数760件の

約 83.3%にあたる 633 件が「必要性を感じる」と回答しており、文学部人文学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 760 件の約 82.1%にあたる 624 件が「採用したいと思う」と回答している。

また、「採用したいと思う」と回答した企業等のうち 206 件が単年度あたりの採用予定人数を示しており、採用人数を「3人以上」と回答した 31 件の企業等の採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した 417 件の企業等の採用人数を「1人」としてカウントした場合、全体で 727 人の採用が見込まれる調査結果となっている。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業・団体等に限定した調査結果においても、文学部人文学科を卒業した者への高い採用意向が確認できることから、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。(資料 14：追手門学院大学文学部 進学需要・人材需要に関するアンケート調査結果報告書(人材需要調査部分抜粋))